

校内別室の環境整備等について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 2 年生の 1 学期半ばから欠席・早退が目立つようになった。教室にすることへの不安、授業内のグループ活動への抵抗などの訴えがあり、校内別室の利用を始めた。校内別室にほぼ毎日登校できるようになり、2 学期は教室で受けられる授業も増え、給食も教室で食べられるようになった。

具体的な取組

○校内別室の環境整備

旧 P C 室を校内別室とした。教室半分を学習メインの空間と身体を動かせる場として活用できるようレイアウトした。また、パーティションで個別の学習ブースを数箇所設置した。



○支援会議の実施

週 1 回時間割に組み込んである不登校対策委員会（管理職・生活指導主任・不登校担当教員・養護教諭・各学年担当・不登校対応巡回教員・支援員）において、情報交換や対応の確認を行った。また、支援室におけるシステムやルールづくりを検討し、学校全体への周知に取り組んだ。

○学習支援

一人 1 台端末を活用し、教室とつなぐオンライン授業に取り組んだ。生徒に合わせた自習課題、生徒持参の課題など別室でのスケジュールを自ら考えさせ、校内別室指導支援員も補充的な学習支援を行った。その日の記録として「生活のメモ」を記入し、保護者にも目を通してもらうことで別室利用の共通理解を図った。

○S C や外部機関との連携

生徒、保護者ともに、入室時及び定期的に S C との面談を行っている。市の教育相談室、S S W、子ども家庭支援センターとも連携を図り、担当者が家庭訪問したり保護者へ連絡を取ったりした。情報共有をこまめに行い、外部機関と教員が共通認識をもって対応できるよう心がけた。

成果

別室に常時在室の教員、支援員がいることで、いつでも利用できるという生徒の安心感につながっている。登校しぶりとなった生徒への早期対応ができ、2 人は教室復帰、昨年不登校の 2 人は週に数時間利用して、教室への登校も継続している。

課題

学習支援、身体活動支援や体験学習の充実を図る。支援室登校の継続が難しい生徒への有効的な働きかけを考えていく。

学習支援の充実を図る校内別室の取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生の当初から欠席が目立つようになり、不登校の状態が現れ始める。教育支援センターへ 6 月から 11 月まで通所するが、それ以後は通所できていない。一方で、学校行事には参加できた。

具体的な取組

○「居場所づくり」と「絆づくり」への推進

校外学習や職場体験などに向けて、当該生徒が安心して取り組めるよう生徒同士、意見交換をしやすい雰囲気づくりに努めた。また、合唱コンクールの練習において他学年との交流を図ることで絆づくりに努めることができた。

○別室対応による不登校生徒の支援

現在、当該生徒は教室に入ることができているが、英語の授業のみ入ることが難しい。当該生徒にとって、自分のペースで学べる校内別室は安心できる場となった。また、英語の授業の遅延も復帰への障害となることから、オンライン授業を実施し、担当教員と一緒に学習することができた。

○校内別室における環境整備

広さに余裕のあるコンピュータ室を校内別室とし、教室半分を学習する空間と身体を動かせる場として活用できるようにした。また、パーティションで個別の学習ブースを数箇所設置し、ゆとりのある明るい空間で落ち着いて学習できるようにした。



○支援会議への参加

毎週行われている校内委員会において、当該生徒の今後の対応について情報交換を行った。学級担任と協力し、当該生徒の英語の授業復帰に向けて個別支援を行っていく。

成果

昨年度は長期欠席が続いたが、苦手な英語の時間を校内別室で過ごすことで、今年度はそれ以外の授業に参加できるようになり、登校できるようになった。

課題

校内別室での個別支援で、英語の授業をシミュレーションして、授業に慣れるようにする必要がある。

安心して過ごせる子供の居場所づくり・きずなづくりについて

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生の 1 学期中旬頃から不安感等の要因により欠席が続いたが、現在は、ほぼ毎日、校内別室に登校できるようになった。また、今年度に入り、昨年度までは参加することが難しかった朝の学級活動にも学級で参加できるようになるなど、着実に改善の方向に進んでいる。

具体的な取組

○校内委員会での情報共有とケース会議での具体的支援の検討

校内委員会を定期的に開催し、特別支援教育の視点から今後の対応について情報交換を行った。また、ケース会議を随時適切なタイミングで開催し、家庭訪問時の状況や現状把握・具体的支援の検討を行った。

校内別室に登校する生徒の出欠が把握できるようホワイトボードで可視化し、当該生徒の登校を全教員が認識できるようにした。不登校生徒支援に対する全教員の意識を高め、組織力の向上を図った。

○不登校対応巡回教員配置による効果

加配教員による不登校未然防止や早期支援の取組が出現率を抑制する一助になっている。各教職員との連携、調整を図ることで、校内全体の取組を活性化することができた。「生徒の実態に応じた学校全体の支援」や「不登校を生まない魅力ある学校づくり」について全教員の理解を深めることができた。

○学習支援

校内別室に「個人学習スペース」を設け、オンラインによる授業への参加を実施するなど、教室での授業に参加できる体制を構築した。



○移動図書の活用

生徒の自主性や学習意欲を引き出すことを目的として、通常の図書室利用が困難な生徒に対しても本の貸し出しを可能にした。生徒が校内別室で読書をしたり、調べ学習をしたりできるよう環境の整備に努めた。

○教職員の研修の充実

不登校生徒の支援に関する校内研修会を実施することで生徒理解を深めた。教員の不登校生徒への支援に関する意識の向上を図った。関係機関との連携を強化し、適切な指導に努めてきた。

成果

校内別室を安定して運営することで、登校できるようになった生徒が増加した。また、校内別室を活用することで、生徒がオンライン授業に参加し、終日、教室と同様の授業を受けられるようになるなど、「学びの保障」を実現することができた。

課題

校内別室を運営する教員を確保し、不登校対応巡回教員と協力して今後も安定した支援を図ることが課題である。